

濱口容所 はらひくち 實業家、漢詩人。文久二年五月十日紀伊國有田郡廣村生れ、大正二年十一月十一日歿（八二—一九三三）。諱勝、通稱古右衛門。濱口熊嶽の長子。九歳にして上京、濱村藏六の門に入り漢學を修め、尋ついで龜田鷲谷の塾に學ぶこと數年、うち慶應義塾に入り洋學を修めた。明治二十四年鐘淵紡績株式會社の重役に就任以降、富士瓦斯紡績株式會社創り、豐國銀行頭取等實業界の活動。衆議院議員、貴族院議員を務め、奇英にも力を盡した。

漢詩集『滿清遊草』、『遊臺小草』、『東北游艸』等を著はし、また、毎年名流貴人を柳橋梯雲樓に招いて吟筵を開き、その折の篇什を『梯雲取月集』と題して出版、三集に及んだ。一方書畫孰れにも秀れ、『容所遺韻』（大正四年十一月二十一日喜多貞吉編刊）には、その書畫、漢詩文の他、略傳を収める。一方今實業家中心にも稀な文藻を有すべしと評せられた。他に『日本樹工政策』（濱口古右衛門名、明治二十四年四月二十日博文館）の著がある。

